

3

NEC Express5800シリーズ**ソフトウェア編**

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のDVDについて (200ページ)

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに収められているソフトウェアについて紹介します。

EXPRESSBUILDER (202ページ)

セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。

ExpressPicnic (205ページ)

シームレスセットアップ用パラメータファイルを作成するツール「ExpressPicnic」について説明します。

本体用バンドルソフトウェア (217ページ)

本装置にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

管理PC用バンドルソフトウェア (224ページ)

本体を監視・管理するための管理PC にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。

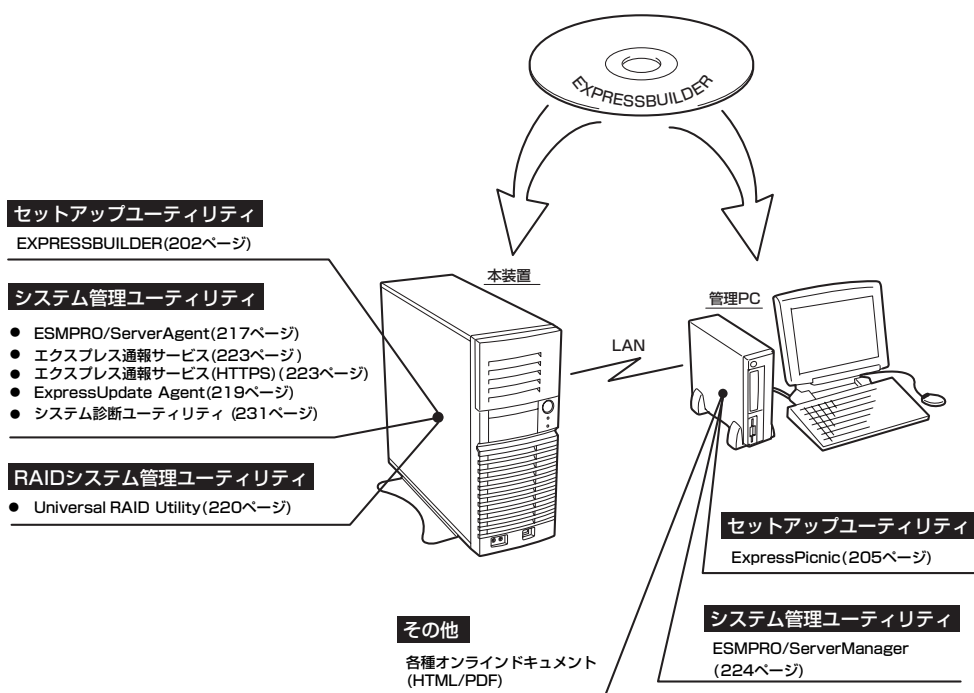
添付のDVDについて

添付のEXPRESSBUILDER® DVDには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。



重要

「EXPRESSBUILDER」DVDは、本装置の設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



DVD媒体読み込み機能のない管理PCを使用したいとき

EXPRESSBUILDERはDVDにて提供しているため、DVD媒体読み込み機能のないコンピュータでは各種ソフトウェアのインストールをすることができません。DVD媒体読み込み機能のないクライアントマシンへソフトウェアをインストールしたい場合は、次のような手順にて、いったんCD-R等へコピーしてから使用してください。



本手順は、クライアントへソフトウェアをインストールする目的に限り、CD 1枚分のみコピーすることができます。

1. 本装置など、DVD媒体が読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は終了させる。
3. エクスプローラから、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル・フォルダをハードディスクドライブへコピーする。

¥(ルートフォルダ) : version.xmlをコピー

```

|
+--- ¥008
    |
    +---- ¥ar_menu 以下すべて
    |
    +---- ¥doc以下すべて
    |
    +---- ¥win以下すべて
  
```

4. 手順3にてコピーしたファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にてCD-Rへコピーする。
コピーするときは、ルートフォルダを一致させてください。
5. CD-Rへのコピーが完了したら、手順3にてコピーしたハードディスクドライブ上のファイル・フォルダはすべて削除する。
6. 手順4で作成したCD-Rをクライアントマシンの光ディスクドライブへセットする。
7. エクスプローラから、CD内の以下のファイルを実行する。

```

¥008¥ar_menu¥autorun_menu.exe      (32bitエディションの場合)
                                     autorun_menu_x64.exe  (64bitエディションの場合)
  
```

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、OSのインストール、装置のメンテナンスなどをするためのソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはRAIDシステムの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

各メニューの起動について

「EXPRESSBUILDER」DVDを本装置の光ディスクドライブにセットして起動すると、以下のようなメニューが起動します。

Boot selection	
Os installation***default***.....	①
Tool menu.....	②

① Os installation

本項目を選択すると、EXPRESSBUILDERトップメニューが表示されます。



本ツールは Configuration Tool であり、Windows PEを使用しています。
72時間継続して使用すると自動的に再起動されますのでご注意ください。

このメニューから、OSインストールのための「シームレスセットアップ」(導入編参照)や、以下のような機能をキックすることができます。

- a) Windows用OEM-Diskを作成する
Windowsのマニュアルセットアップで必要となるOEM-Diskを作成します(導入編—マニュアルセットアップ参照)。
- b) RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ／ロードする
RAIDコントローラ上のRAIDコンフィグレーション情報を保存したり、復元したりすることができます。
- c) EXPRESSBUILDERにドライバをロードする
通常は使用しません。オプション製品を追加した場合に使うときがあります(導入編—応用セットアップ参照)。

② Tool menu

本項目を選択すると、ツールメニューが起動します。

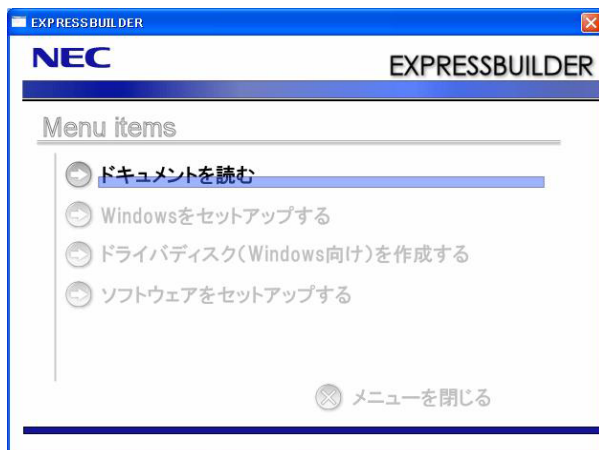


このメニューから、以下のような保守用の機能をキックすることができます。各機能の詳細については、運用・保守編の保守ツールの章を参照してください。

- a) Maintenance Utility
オフライン保守ユーティリティを起動します。
- b) BIOS/FW Updating
システムBIOSをアップデートします。
- c) ROM-DOS Startup FD
ROM-DOS起動FDを作成します。
- d) Test and diagnostics
システム診断を起動します。

オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、Vistaまたは Windows Server 2003、2008 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVDをセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。



チェック

セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、いったんドライブからEXPRESSBUILDERをイジェクトし、再度セットしてください。また、メニューを再表示させたいときは、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、EXPRESSBUILDERをセットしたドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



ヒント

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Readerがインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

メニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



重要

DVDを光ディスクドライブから取り出す前に、メニューおよびメニューから起動したオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「パラメータファイル」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDER とExpressPicnic で作成したパラメータファイルを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOS のインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「パラメータファイル」を作成して、EXPRESSBUILDER からセットアップすることをお勧めします。

フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USB フロッピーディスクドライブをご用意ください。



Windows Vista / Windows XP用の「パラメータファイル」のみ作成できます。Windows 7用/ Linux用のパラメータファイルは作成できません。



「パラメータファイル」がなくてもシームレスセットアップは可能です。また、「パラメータファイルの入ったリムーバブルメディア」は、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップの途中で作成または修正することもできます。

パラメータファイルの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。以下の手順に従ってください。



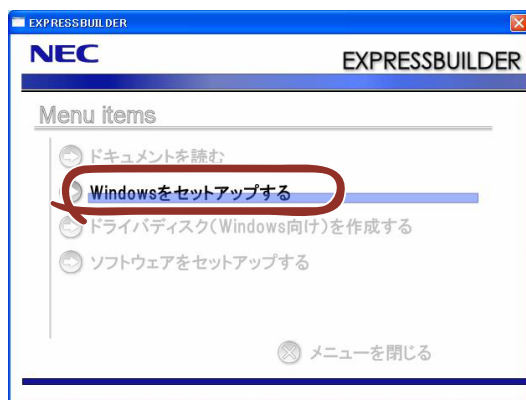
パラメータファイルの作成中は、絶対に[EXPRESSBUILDER]DVDをドライブから取り出さないでください。



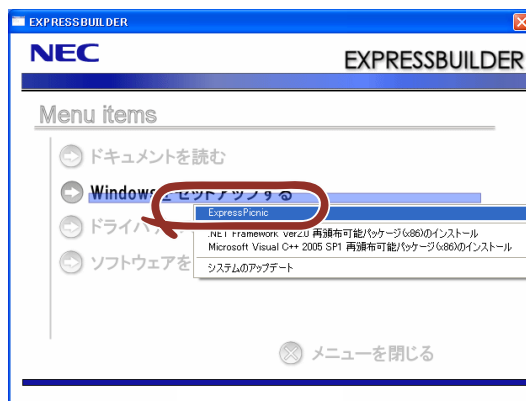
- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。
 - Windows Server 2008 R2（フルインストール）
（ユーザアカウント制御(UAC)は無効にしてください）
 - Windows Server 2008（フルインストール）
（ユーザアカウント制御(UAC)は無効にしてください）
 - Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003
 - Windows 7
（ユーザーアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
 - Windows Vista
（ユーザーアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
 - Windows XP

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

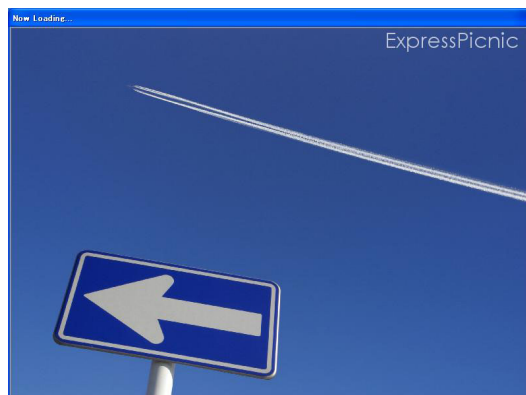
3. 画面上で右クリックするか、[Windowsをセットアップする]を左クリックする。



4. [ExpressPicnic]をクリックする。



ExpressPicnicウィンドウが表示されます。



5. パラメータのロード画面が表示されたら、[パラメータをロードしない]のチェックボックスがオンになっていることを確認し[次へ]をクリックする。



6. OS を選択する。
インストールするOSを選択して、[次へ] をクリックしてください。



7. RAID の設定をする。

[RAID の設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



ExpressPicnicでは、[接続されている全物理デバイスの台数]はRAIDコントローラがサポートしている上限値になっています。「論理ドライブを作成する物理デバイスの台数」と「ホットスベアに指定される物理デバイスの台数」の合計が、「対象装置に接続されている全物理デバイスの台数」を超えないように注意してください。

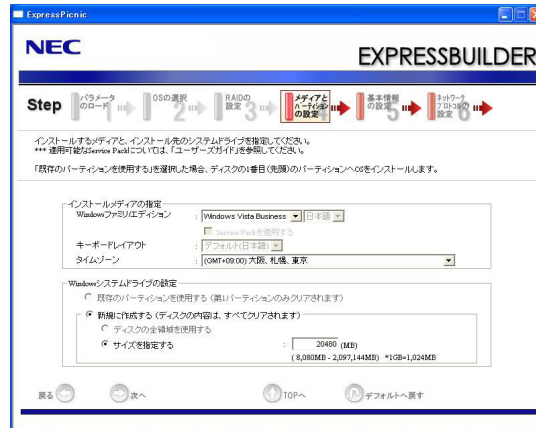


論理ドライブの作成には、同型番の物理デバイスしか使用できません。

8. メディアとパーティションの設定をする。

[メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vistaの場合>



<Windows XP Professionalの場合>





重要

- パーティションサイズについて
 - ー OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください。(68ページ参照)
 - ー 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(67ページ参照)。「Windows システムドライブの設定」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。

9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定]画面が表示されます。ユーザー情報を入力して[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vistaの場合>

<Windows XP Professionalの場合>



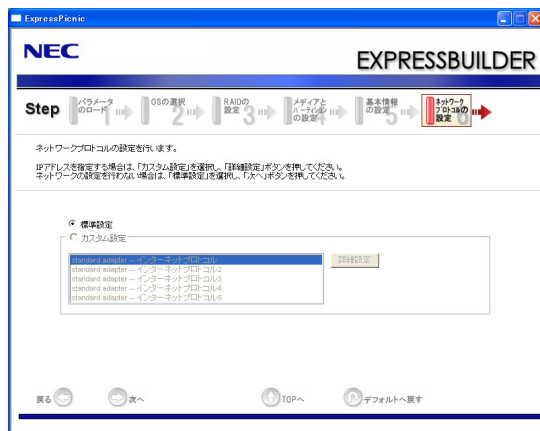
- コンピュータ名および使用者名の入力必須です。
- Windows Vistaの場合、使用者名には「Administrator」、「Guest」を入力しないでください。
- コンピュータ名と使用者名に同じ名前を入力しないでください。



「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「●●●●●●」が表示されます。

10. ネットワークプロトコルの設定をする。

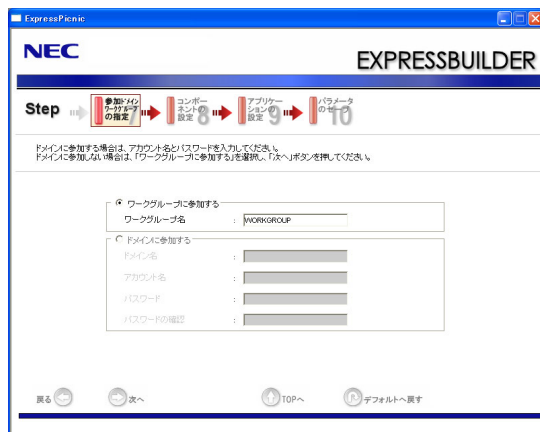
[ネットワークプロトコルの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



カスタム設定での登録順は、LAN ポートの番号と一致しない場合があります。

11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

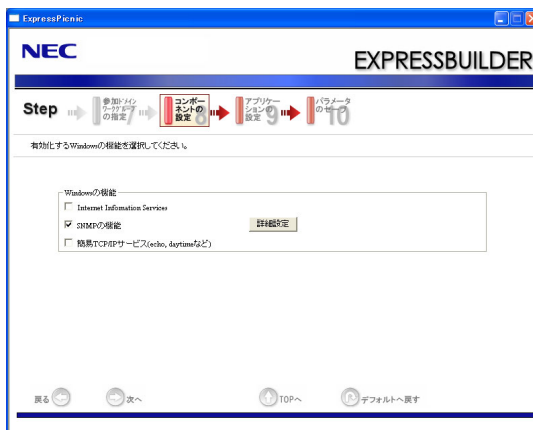
[参加ドメイン・ワークグループの指定]画面が表示されます。
設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。



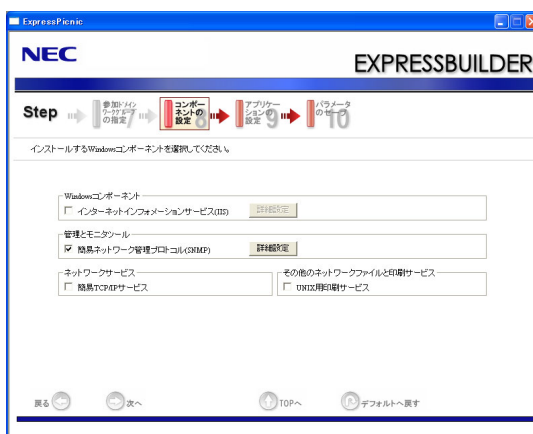
12. コンポーネントの設定をする。

[コンポーネントの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vistaの場合>



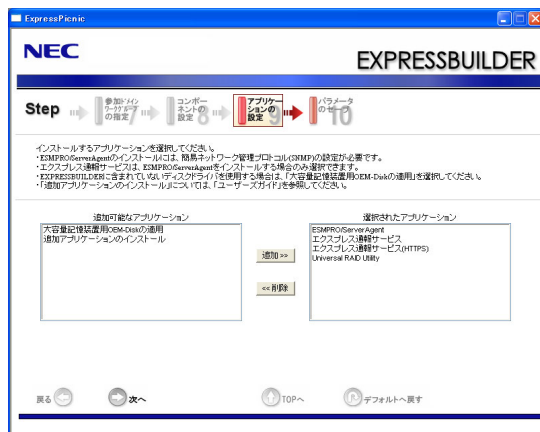
<Windows XP Professionalの場合>



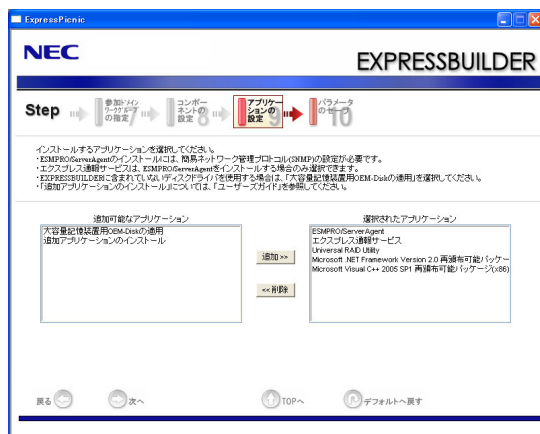
13. アプリケーションの設定をする。

[アプリケーションの設定]画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して[次へ]をクリックしてください。

<Windows Vistaの場合>



<Windows XP Professionalの場合>



「追加アプリケーションのインストール」について
「追加アプリケーションのインストール」とは、シームレスセットアップの最後にあらかじめ指定された任意のアプリケーションを自動でインストールする機能です。詳細については、「<http://www.nec.co.jp/expicnic/>」の[FAQ]シリーズを選択一対応するバージョンの[重要]を選択一[追加アプリケーションのインストールについて]を参照してください。

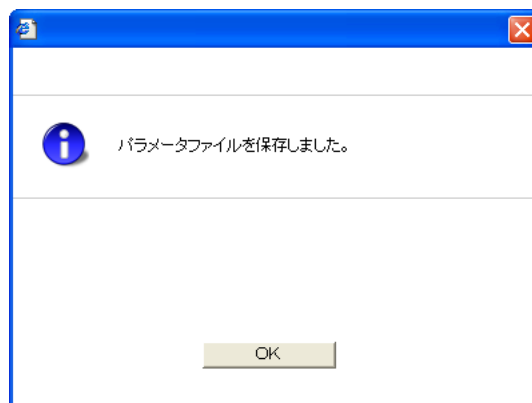
14. パラメータをセーブする。

「パラメータのセーブ」画面が表示されます。

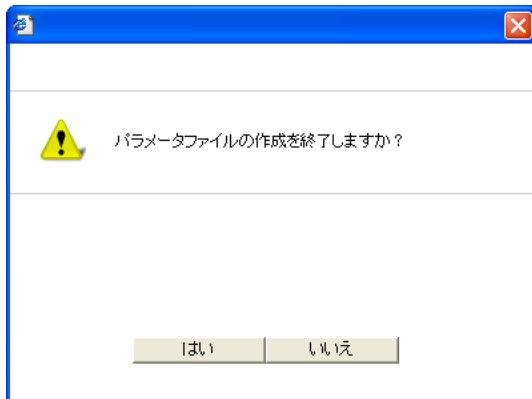
「パラメータをセーブする」を選択し、リムーバブルメディアをセットした後、ファイル名をボックスへ入力し、[次へ]をクリックします。




15. リムーバブルメディアに保存する。



「パラメータファイルの入ったリムーバブルメディア」が作成できました。
[はい]をクリックし、パラメータファイルの作成を終了してください。



- 既存の情報ファイル（パラメータファイル）を修正する場合は、[パラメータのロード]画面で、パラメータをロードするをクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。
- 途中で終了する場合は、画面右上の  をクリックしてください。

本体用バンドルソフトウェア

本体にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版) インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- ネットワークサービスの設定

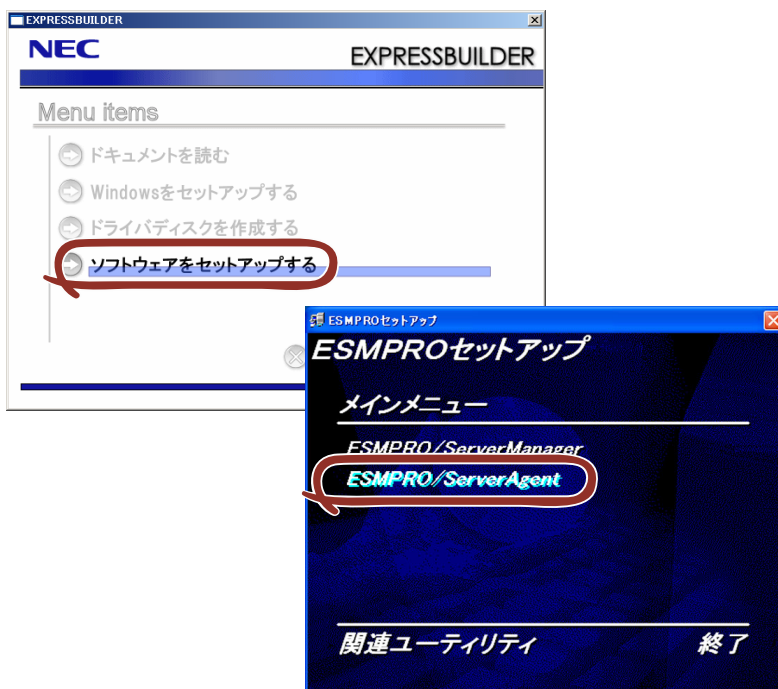
プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」DVD を使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから「ソフトウェアをセットアップする」－「ESMPRO」－「ESMPRO/ServerAgent」の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



Administrator権限を持つユーザでログオンしてください。

ネットワーク上の光ディスクドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgent (Windows版) の監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめてからインストールし直してください。

ExpressUpdate Agent

装置のファームウェアやソフトウェアなどのバージョン管理や更新を行うことができます。ESMPRO/ServerManagerによって、自動的にダウンロードした装置の更新パッケージを、システムを停止せずに簡単に適用できます。

ExpressUpdate Agentの機能やインストール方法についての詳細はEXPRESSBUILDER内の「インストレーションマニュアル」を参照してください。



ExpressUpdateに未対応のファームウェアまたはソフトウェアの更新パッケージが提供されることがあります。これらの更新パッケージの適用に関してはPCサーバ サポート情報 (<http://support.express.nec.co.jp/pcserver/>) を参照してください。

Universal RAID Utility

Universal RAID Utilityは、以下のRAID コントローラの管理、監視を行うアプリケーションです。

- LSI Embedded MegaRAID™

Universal RAID Utilityのインストールおよび操作方法、機能については、添付のEXPRESSBUILDERに収録している「Universal RAID Utility Ver2.1 ユーザーズガイド」を参照してください。

なお、「Universal RAID Utility Ver2.1 ユーザーズガイド」に記載されているUniversal RAID Utilityの動作環境(オペレーティングシステムなど)が、本ユーザーズガイドの動作環境と異なる場合があります。この場合は、本ユーザーズガイドに記載の動作環境を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

本体装置のモデルにより、あらかじめ Universal RAID Utility がインストールされている場合があります。

シームレスセットアップを使用したセットアップ

Universal RAID Utilityは、EXPRESSBUILDERに収録している「シームレスセットアップ」を使用してセットアップできます。シームレスセットアップのセットアップするアプリケーションの選択で、[Universal RAID Utility] を選択してください。

Universal RAID Utilityのセットアッププログラムを使用したセットアップ

[オートランメニュー]でUniversal RAID Utilityのセットアッププログラムを起動できます。
[オートランメニュー]で[ソフトウェアをセットアップする]、[Universal RAID Utility] をクリックします。

なお、Windowsの場合、

- － Microsoft .NET Framework 2.0以上
- － Microsoft .NET Framework 2.0以上の日本語Language Pack
- － Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリ

のランタイムコンポーネントが必要です(Windows Vistaでは「Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリ」以外のランタイムコンポーネントはOSに組み込まれているため不要です)。この3つのソフトウェアは、[オートランメニュー]でインストールできます。

[Microsoft .NET Framework 2.0]と[Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack] をインストールするには、[オートランメニュー]で[Windowsをセットアップする]、[.NET Framework Ver2.0再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (x64の場合、[.NET Framework Ver2.0 再配布可能パッケージ(x64)のインストール]) をクリックします。

[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリのランタイムコンポーネント] をインストールするには、[オートランメニュー] で [Windowsをセットアップする]、[Microsoft Visual C++ 2005 SP1 再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します)をクリックします。

ESMPRO/ServerManagerによる管理

『ESMPRO/ServerManager Ver. 5.2以降』を使用すると、ESMPRO/ServerManagerでUniversal RAID Utilityが管理するRAIDシステムの参照や監視、オペレーション実行などを行います。

なお、『ESMPRO/ServerManager Ver. 5.2以降』でRAIDシステムを管理するコンピュータのオペレーティングシステムは、Windowsのみサポートします。ESMPRO/ServerManagerの動作環境や操作方法などについては、ESMPRO/ServerManagerの操作説明を参照してください。

イージーコンフィグレーション機能

Universal RAID Utilityの「イージーコンフィグレーション」機能は、LSI Embedded MegaRAID™では使用できません。

Web-based Promise Array Manager

Web-based Promise Array Manager(以下WebPAMと略記します)は、N8103-101またはN8103-103のRAIDシステムの監視・管理を行うアプリケーションです。WebPAMを使用することで、システム運用中のアレイ保守やイベント監視による通報を行うことができます。

WebPAMのインストールおよび操作方法については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザズガイド」を参照してください。この説明書には運用にあたって注意すべきことも掲載しています。運用開始前に必ずお読みください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にWebPAMがあらかじめインストールされている場合があります。この場合、この他にInternet Explorerの設定や通報監視についての設定などが必要な場合があります。「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザズガイド」の付録を参照し、設定してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

WebPAMは添付の「EXPRESSBUILDER」に収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。シームレスセットアップを開始すると、アプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されます。ここでWebPAMを選択してください。

手動インストール(新規インストール)

手動でWebPAMをインストールする場合は「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Web-based Promise Array Managerユーザズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) に登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知することや、障害発生時に迅速に保守を行うことができます。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) を有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェアメンテナンスサービスの契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) のみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) はご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **開局にあたって**

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) を開局する際には、ご契約毎のご契約情報を記録した「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) 開局キーファイル」を、通報対象の装置に適用する必要があります。「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) 開局キーファイル」は、弊社での開局準備ができ次第、エクスプレス受付センターから提供いたします。ファイルの提供とその適用方法には、以下の2通りの方法があります。

- (1) ネットワーク経由でダウンロード

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) を NEC サポートパック登録ホームページ、もしくはお客様登録のサイトからお申し込みの場合、お申し込みの手続きを実施いただき、弊社での開局準備完了後、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) 開局キーファイル」をダウンロードできます。ダウンロード後、インストレーションガイドに従い、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) 開局キーファイル」を設定頂くようお願いします。

- (2) 通報サービスの通報開局FD

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) を製品同梱の申込用紙もしくは契約書で申し込みの場合、お申し込み内容を確認し、弊社での開局準備完了後、エクスプレス受付センターより、「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) 開局キーファイル」を格納した「通報開局FD」を送付いたします。お申し込み手続き後しばらくお待ちください。

「通報開局FD」到着後、インストレーションガイドに従い、設定してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

管理用PC上でESMPRO/ServerManagerを使用すると、リモートで本装置を管理・監視、モジュール管理、RAIDシステムの管理・監視を行えます。この機能を使用するためには、各種本体用バンドルソフトウェアを本装置にインストールする必要があります。
管理用PCへのESMPRO/ServerManagerのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。